

うさぎの耳

聴くことは社会貢献の第一歩！

85（最終）号（2024年3月1日）
福津市社会福祉協議会内

◇ 市役所、社協、包括からのお知らせ

◇ 会からの連絡事項

- (1) 三愛の傾聴活動を、11月から開始しました。火曜日、金曜日、13:30～1時間。3名までです。水光苑の活動は、施設側の要請により原則第2週、第4週のみに行いました。
水と光の園の活動、2月以降当面中止します。
- (2) 定例会出席者は、スケジュール表に活動日を記入して下さい。
- (3) 傾聴カフェ、3月1日9名参加でした。4月5日、5月10日にします。
うさぎの耳廃刊に伴い、傾聴カフェの予定は、LINEのノートに掲載します。

◇ 2月定例会の話題

- (1) 「和らぎ」から施設傾聴の希望がありました。
- (2) きずなフェスティバル：2月18日2名参加でした。
- (3) 在宅傾聴の依頼がありました。
 - ① 男性、94歳、東福間の在宅傾聴は、11月から開始しました。
 - ② 津屋崎在住の女性、在宅傾聴の依頼がありました。現在調整中です。

◇ こんな活動をしました

- ① 以前にも話したことがある80歳代の女性とハッキリした言葉で話されました。
- ② 息子さん一家のほのぼのとした様子をうかがいました。短く感じたい時間でした。
- ③ 日増しに傾聴活動に参加される方が増えています。皆様と仲間のように楽しい、打ち解けた時間になるようにしたいものです。
- ④ コーヒー好きで、帰宅後飲むコーヒーにホッとするとのこと。
- ⑤ 小さい頃から、家の野菜、米作りの手伝いをしていた。高い野菜は味が良いとのこと。下級米はおにぎりにしたりして昔は食べた。
- ⑥ ご近所の方と久しぶりのお話を楽しみました。
- ⑦ 和やかで生き立ち、家族のことなど沢山のことを話され、前向きな生き方が参考になりました。
- ⑧ その人の名前の由来や地域のことについて花が咲きました。
- ⑨ 耳の遠い人もいたので、難しい話でなく、身近な話をして楽しみました。
- ⑩ 十分に満足な傾聴は出来ないが、人それぞれに温かさやその人の生き方を感じた。
- ⑪ 99歳の方が、子供の職業のこと、戦後の生活の話をしてされました。
- ⑫ 94歳の女性は、大刀洗での戦時中の話をされました。
- ⑬ 92歳の女性は、助産婦として30年働き、良い仕事したと誇らしげでした。

- ⑭ スマホに詳しい方から沢山のことを教えて貰いました。
- ⑮ 口が重い方で糸口を探すのに苦労しました。
- ⑯ 人の悪口を言ってはだめと言われ、ここでの生活の秘訣であろうと思いました。
うさぎの耳廃刊に伴い、活動要旨は、毎月の定例会議題の裏面に掲載します。

「うさぎの耳」終刊に寄せて

山崎 正弘 会員

うさぎの耳は2016年9月創刊号を出しました。

会員の親睦融和、意思疎通の円滑化、絆の醸成、資質向上により会員の一層の向上を図ることにありました。期待される効果として、前述の他会のイメージアップ、周知度の控除、会員増、助成金取得の容易性などでありました。

紙面の構成は現状通り、連絡事項、定例会の話題などですが、特筆事項は「こんな活動をしました」です。うさぎの耳の発刊を思い付いたのは、施設や個人傾聴での活動報告書が、それまで単にファイルに綴じるだけで死蔵されていました。そこで活動報告書を短く要約・開示し活動者の貴重な記録を広く皆さんに知ってもらい、それを自らの活動の参考にすることにより傾聴活動の洗練化が図られるのではと思いました。参考になったでしょうか。

折角の会員誌ですので会員の広場も設けました。皆さんから広く投稿をお願いし、快く引け受けて頂き、紙面を充実することが出来ました。特に河内さんには、川柳を担当して頂き参加されている方々の作品を取り纏めてもらい、感謝するところです。

振り替えてみて、この間、当初の目的を達成できたかどうか定かではありませんが、ボランティア活動している単なる団体が、このような会員誌を発行することは希有なことではないかと自負しています。継続できたのも会員各位のご協力の賜と厚く謝意を表すところです。本当に有り難うございました。

